

北海道自動車産業集積促進アクションプラン(2017-2020) 《概要》

I 策定の趣旨

- 本協議会は、平成26年度に「アクションプラン」を策定し、関係者の連携の下、企業誘致や参入促進など取り組んできたところであるが、この計画期間が平成28年度で終了。
- この間の状況変化、即ち人材確保の困難化、自動走行の研究開発の加速化などを踏まえ、今後、より一層効果的に取り組んでいくため、今般、「アクションプラン」を改定。
- ※ 北海道自動車産業集積促進協議会
 - ・道など行政・支援機関や自動車関連企業、参入を目指す企業などにより平成18年に設立(258会員(平成29年1月現在))。協議会の代表は、北海道知事と北海道経済連合会会長。

II これまでの取組と成果

- 自動車基幹部品の供給拠点を目指し、「企業誘致」「参入促進、域内取引の拡大」「人材の育成・確保」「取組を進める環境づくり」「将来を見据えたチャレンジ」の5つを柱に取組を展開。

<取組>

企業誘致	参入促進、域内取引の拡大	人材の育成・確保
トップセールス、人材育成への支援、HPによる情報発信等	専門家による指導、セミナー、展示商談会等	ものづくり体験会やものづくりなでしこ応援プロジェクト等
取組を進めるための環境づくり	将来を見据えたチャレンジ	
東北7県と連携した商談会、交流会等	北海道発EV研究開発・利活用プロジェクト等	

<協議会の取組の成果>

	企業立地	出荷額(輸送用機械製造業)	従業員数(輸送用機械製造業)
協議会設立時からの比較	64件(H19→H27)	約1,200億円増(H17→H26)	約2,100人増(H17→H26)
プラン策定前からの比較	21件(H26→H27)	約267億円増(H25→H26)	約454人増(H25→H26)

※ 立地件数は上記期間における計

III 本道の強み、課題

<主な強み>

- エンジンや変速機など、基幹部品工場の集積
- 素形材産業の集積
- テストコースの集積
- 中京圏等との低い同時被災リスク

<前回策定時からの主な状況変化>

- 人材確保の困難化
- 自動走行の研究開発の活発化

<主な課題>

- 人材の育成・確保
- 自動走行に関する取組の展開
- 部品分野での新たな参入強化

IV 展開方策

<目指す姿>

基幹部品生産と研究開発が両輪となった自動車産業の集積

～ 自動車関連産業の集積によりものづくりが北海道のリーディング産業に ～

<方策>

- 基幹部品の生産拠点と研究開発拠点をを目指す取組、拠点形成を支える取組の3つの観点で展開。
期間：平成29年度～平成32年度(4年間)

部品の生産拠点形成を目指した取組		
企業誘致の推進	参入促進、域内取引の拡大	次世代自動車を見据えたチャレンジ
トップセールス、人材育成への支援、HPによる情報発信等	部品分野を中心に、専門家による指導、セミナー、展示商談会、参入可能性の高い企業の絞り込みと支援の強化等	本道独自の電気自動車の研究等
研究開発拠点形成を目指した取組		拠点形成を支える取組
自動走行の実証試験誘致	人材の育成・確保	各取組を支える環境づくり
北海道自動車安全技術検討会議における取組の推進等	ものづくり産業の理解促進や大学生の地元定着、働きやすい環境の整備促進等	商談会、交流会などをとおした東北7県との連携の強化等